

ニュースリリース

コペルニクス、ガリレイ、ニュートン、デカルト、アインシュタイン——
問いから探究が始まり、世界の見え方が変わる。

[世界を変えた書物]展 金沢展 開催に関するお知らせ

会期：2022年10月21日（金）—11月5日（土）会期中無休

会場：金沢21世紀美術館 「市民ギャラリーA、B」

*但し、市民ギャラリーBの特別展示

「手稿の中の宇宙 レオナルド・ダ・ヴィンチを旅する」は10月30日までの開催

入場無料

主催：K.I.T.金沢工業大学、北國新聞社

本件に関するご取材、お問い合わせ先

金沢工業大学企画部

担当：新田光子 koho@kanazawa-it.ac.jp

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

電話 076-246-4784 FAX 076-248-7318

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/>

はじめに

[世界を変えた書物]展は、金沢工業大学が“工学”の観点から、科学的発見、技術的発明に関わる原典初版を収集した稀覯書のコレクション「工学の曙文庫」を、広く一般に紹介することを目的に企画されました。

来場者が書物と出逢い、興味をかき立てられ、さらに理解へつながるようにと展示の構成を担ったのは、金沢工業大学の大学院生・学部生たちです。貴重なコレクションの中から展示する書物を厳選、それらの書物同士の関係性がひと目でわかるような空間デザインを、担当教授とともに練り上げていきました。

「知の壁」で書物の歴史を概観した来場者は、さらにその先に広がる圧倒的な「知の森」へと足を踏み入れることとなります。内容ばかりでなく、書物を形づくる装幀、タイポグラフィや挿図の美しさもまた、鑑賞に値することに気づかれるでしょう。そして知の連鎖に導かれるように「知の森」の旅を終えたとき、過去から未来へと網の目のように伸びる叡智の連なりの確かさを、あらためて実感するに違いありません。

この展覧会が、書物が蔵する豊かな叡智との、出逢いと発見の契機となることを願っています。

金沢工業大学

.....

[世界を変えた書物]展は、これまでに、金沢 21 世紀美術館（2012 年）と名古屋市科学館（2013 年）、グランフロント大阪（2015 年）、上野の森美術館（2018 年）、福岡・JR 九州ホール（2019 年）で開催し、およそ 19 万人の方々にご覧いただきました。金沢 21 世紀美術館では、10 年ぶり 2 度目の開催となります。

また、2018 年上野の森美術館で開催された東京展は日本科学技術ジャーナリスト会議が科学技術に関する報道や出版、映像などで優れた成果をあげた人や団体を表彰する科学ジャーナリスト賞 2019 年大賞を受賞しました。

開催概要

タイトル：[世界を変えた書物]展 金沢展

コペルニクス、ガリレイ、ニュートン、デカルト、アインシュタイン――

問いから探究が始まり、世界の見え方が変わる。

会期：2022年10月21日（金）－11月5日（土）＜16日間＞ 会期中無休 入場無料

10時～18時（入場は閉場の30分前まで）

会場：金沢21世紀美術館「市民ギャラリーA、B」（1F、B1F）

〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

*市民ギャラリーB「特別展示」は、10月30日までの開催

.....

特別展示「手稿の中の宇宙 レオナルド・ダ・ヴィンチを旅する」

探究の渦中にこそ、創造の種子が胚胎する。

会期：2022年10月21日（金）－30日（日） 会期中無休 入場無料

10時～18時（入場は閉場の30分前まで）

会場：金沢21世紀美術館「市民ギャラリーB」（B1F）

.....

「世界とは何か」。古代の哲学者＝科学者たちが抱いた根源的な問いは、無数に枝分かれし、絡み合いながら、大樹の枝、あるいは根のように広がっていきました。その結び目、といえるのが「書物」です。たとえばコペルニクスの地動説、ケプラーの楕円軌道説、そしてニュートンの力学は、いずれも書物のかたちで示されたものでした。時代の限界に制約され、多くの誤りと未解決の問題を抱えながらも、新しく創造的な問いを生む契機を宿した書物たちの連なりが、「世界」の素顔を少しずつ明らかにしてきたのです。今展では、それら自然科学・工学関連の稀覯書約140冊を、一堂に展示します。いずれも15世紀に普及した活版印刷術によって、多くの人に読まれるようになった印刷本で、金沢工業大学ライブラリーセンターの稀覯書コレクション「工学の曙文庫」からの出品です。

主催：K.I.T. 金沢工業大学、北國新聞社

後援：石川県教育委員会、金沢市教育委員会

協力：小学館

監修：山本貴光（金沢工業大学 客員教授）、橋本麻里（金沢工業大学 客員教授）、

竺覚暁(元金沢工業大学教授 ライブラリーセンター顧問ー2020)

会場構成・展示デザイン：金沢工業大学建築学部 宮下研究室 教授 宮下智裕・大学院生・学部生

総合プロデュース：二飯田憲蔵（金沢工業大学 企画部）

制作：ハクシヨン

お問い合わせ：金沢工業大学企画部 電話 076-246-4784 E-mail koho@kanazawa-it.ac.jp

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘 7-1

本展公式サイト：<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shomotu/>



展示内容

本展の展示プランは、金沢工業大学建築学部の大学院生・学部生たちが構成したものです。会場全体を「知の森」ととらえ、分野ごとに書物を展示、それぞれの内容や書物同士の関係性をわかりやすくご紹介します。知を愛し、探究する者たちが歩んだ知性の道を、ぜひ一緒にたどってみてください。「○○の法則」「○○の定理」など、かつて教科書を通して学んだ知識が、実感を伴い、生々しく立体的に迫ってくるはずです。

「知の壁」THE WALL OF WISDOM

知の旅は、圧倒的な「書物の壁」との出会いからはじまります。現代の電子図書からさかのぼり、中世のゲーテンベルクによる印刷機の発明まで、多くの人々が知識を共有することを可能にした、まさに「世界を変えた」デバイス、書物の歴史をたどります。



「知の壁」展示イメージ 東京展（2018年、上野の森美術館）

「知の森」THE FOREST OF WISDOM

オリジナルの原書は、それ自体が作品（オブジェ）としての魅力に溢れています。ここでは観客は、森の中のエクスペローラー（「知の探検者」）となります。科学的発見、技術的発明は常に先人の成果に影響を受けながら、次の新たなひらめきや発見へも繋がり、「知の連鎖」を繰り返しながら人類の文明を前進させてきました。「知の森」ではそのネットワーク、科学の結びつきを体感するとともに、原書の魅力を感じ取ってください。また、この金沢展では、特別出品として、チャールズ・ダーウィン『種の起源』（1859年）、グレゴール・ヨハン・メンデル『植物=雑種についての研究』（1866年）などの初版本もご紹介します。



「知の森」展示イメージ 福岡展（2019年、JR九州ホール）

特別展示「手稿の中の宇宙 レオナルド・ダ・ヴィンチを旅する」

会期 : 2022年10月21日（金）—30日（日） 会期中無休

会場 : 金沢21世紀美術館「市民ギャラリーB」（B1F）

*会期、会場が[世界を変えた書物]展「市民ギャラリーA」（1F）と異なります。

ご注意ください。

15世紀半ばのフィレンツェに生まれたレオナルド・ダ・ヴィンチは、画家として、今日の世界で誰よりもあまねく名を知られる存在でしょう。しかし彼の探究と創造は、絵画の領域だけに留まるものではありません。レオナルドもまた、「世界とは何か」という根源的な問いに駆り立てられ、現代であれば音楽、建築、幾何学、光学、解剖学、流体力学、航空工学と分類されるような、多彩な領域へと関心を広げていきました。

その詳細に分け入るための手がかりとなるのが、各地に分蔵される手稿類です。絵画や彫刻として完成に至るまでの、生々しい試行錯誤の痕跡を留めた「ノート」。そこに混沌として散らばる無数の思索の断片は、わずかに現存する完成作品に結びつくものもあれば、行方のわからないものもあります。

特別展示「手稿の中の宇宙 レオナルド・ダ・ヴィンチを旅する」では、金沢工業大学ライブラリーセンターが所蔵する『パリ手稿』『アトランティコ手稿』のレプリカを用い、世界を変える問いはどのように生まれるのか、探究の過程で問いそのものが、そして問う者自身がいかに変容するのかを、インスタレーションとレプリカの展示によって検証します。「世界を変える」とは自らが変わることであるのだと、実感いただけるでしょう。



レオナルド・ダ・ヴィンチ『パリ手稿』（複製版）、ジュンティ社・岩波書店

参加型プログラム

「知の森」の感動をさらに別のかたちで体感していただけるコーナーもご用意しています。
「知の森」に展示した稀覯書と同じ内容の複製本（レプリカブック）を用意。実物と遜色なく、極めて精巧に複製された書物を、実際に手に取り、展示では見ることで見ることのできないページをめくって内容を確認するという、貴重な体験をしていただけます。さらに、「映像シアター」では本展監修者による映像レクチャーで本展の楽しみ方、書物の魅力などをご紹介します。

*展示内容は都合により多少変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

出展書籍(一例)

キャプション表記 凡例

著者名 (生没年)、『書名』、出版地、刊行年、初版

.....

イシドールス (c.570-636) 『語源』、1472年、初版

本展出品物のなかでもっとも古く、科学及び技術用語を含む術語を解説した、百科事典のような本である。自然科学の記述がある書物としては最古の部類に属す。イシドールスは6~7世紀にかけて活躍した人で、この書物を書くことによって、失われて行く古代の科学技術知識を保存し中世に伝える役目を果たした。数学、天文学、解剖学、地学、鉱物学、工学、建築学、農学、気象学などの古代科学技術の貴重な概説を含んでいる



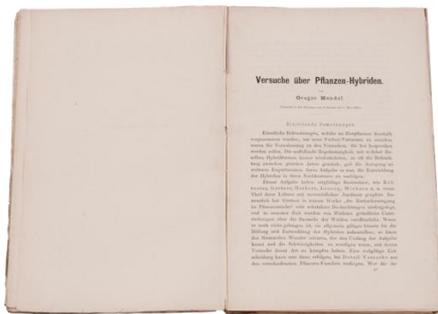
ニコラス・コペルニクス (1473-1543) 『天球回転論』、ニュルンベルク、1543年、初版

「地動説」という太陽系モデルを確立した科学史上最大の書物。プトレマイオス「天動説」が実際の観測結果と合わなくなり、コペルニクスは古代ギリシアのアリスタルコスの唱えた太陽中心説に着目したのである。この後、ケプラーが惑星の楕円軌道を、ニュートンが引力の法則を発見して、その正しさが証明された。



グレゴール・ヨハン・メンデル(1822-1884) 『植物=雑種についての研究』、ブリュン、1866年、初版

オーストリア・ブリュン（現在のチェコ・ブルノ）の修道士だったメンデルは、ウィーンで自然科学を学んだ後、ブリュン実科中学の補助教員となり、エンドウを修道院の実験農園にまいて、有名な遺伝の研究を始めた。実験は8年間続き、彼はその結果を1856年ブリュン博物学会で発表した。そのレポートが本書であり、本書において彼は遺伝に関する「メンデルの法則」を確立したのである。



金沢工業大学ライブラリーセンター

「工学の曙文庫(The Dawn of Science and Technology)」について

「工学の曙文庫」は、金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LC)に設置された、科学的発見や技術的発明が最初に発表された初版本を体系的に収集した稀観書コレクションで、現在およそ 2000 点を所蔵しています。

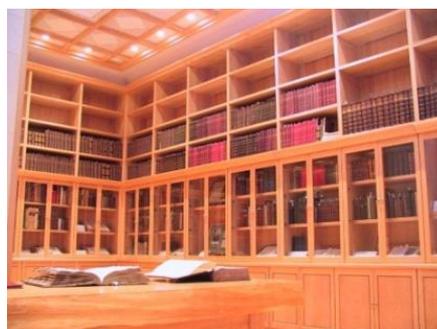
金沢工業大学は工学の教育・研究を行っているわけですが、工学は有益で便利なものを産み出して私たちの生活を豊かにしてくれる反面、その目的や使い方を誤れば大きな災厄をもたらすことは歴史が示しています。工学の教育・研究においては常にこうした危険を認識していなければなりません。その認識のためには科学や工学の発展の歴史的展開の把握が不可欠です。「工学の曙文庫」はまさにこのために構築されたものであり、金沢工業大学の科学技術史や科学技術倫理の教育・研究に活用されています。

KIT-LC は大学に於ける学生生活の中心であるべく、すなわちまさに「大学の心臓」として機能すべく、全く新しい大学図書館のかたちを取って 1982 年に誕生しました。設立準備委員会には国立国会図書館副館長（当時）酒井悌氏、アメリカ図書館協会会長（当時）フォスター・モーハート氏、ハワイ大学教授（当時）鈴木幸久氏などが加わっており、その時代において最先端のライブラリー・サイエンスの成果が応用されたのです。例えば、KIT-LC は全ての図書館業務をコンピュータによって行った我が国最初のフル・コンピュータライズド・ライブラリー、「カードレス・ライブラリー」ですし、当時から「電子化情報」と称してデータベースやデジタル化された情報の収集と利用者に対する提供も行っていました。こうした新しい図書館像を模索し実践しつつも、しかし図書館の本質は「書物」にある、との思いで「書物」中の「書物」である「稀観書」をコレクションしてきたのです。

金沢工業大学ライブラリーセンター



ライブラリーセンター



工学の曙文庫